

R6 国補公下維（工）第 5 号
亀城处理分区管渠等耐震対策工事

特記仕様書

土浦市建設部下水道課

第1章 総則

1. 一般事項

本工事は「茨城県土木工事共通仕様書に記載された事項のほか、本特記仕様書による。

2. 適用範囲

- (1) 本特記仕様書は、下水道管耐震化工事の施工に適用する。
- (2) 本特記仕様書の記述が上記仕様書と重複、または異なる場合は本特記仕様書を優先する。

3. 適用工法

財団法人 下水道新技術機構または耐震化工法の普及と技術の向上を図る組織の審査証明等を受け、監督員の承認を受けた工法とする。

4. 資格者の配置

下記の作業を行う場合は、次に掲げる資格を有する者を配置すること。

- ① 下水管内入孔 — 「酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習を修了した者」
- ② 耐震対策 — 「工法協会による資格認定証」
- ③ その他 — 「施工に必要な資格」

第2章 材料

1. 一般事項

- (1) 材料は、公的機関による技術審査、または技術証明を得た材料を使用すること。
- (2) 材料は、適正な品質管理のもとで製造された事を証明する「品質証明書」等を添付し、「見本資料指定材料確認願」を監督員に提出し確認を得ること。

2. 材料の取扱い

- (1) 材料は、気象状況等により変質しないように、保管には細心の注意を払い使用すること。
- (2) 材料は、製造後速やかに搬入し、長時間を経過したものは使用しないこと。

第3章 材料の品質管理

1. 一般事項

受注者は、工事に使用する材料について所定の品質を保持して供給されるように主任（監理）技術者の責任において品質管理を行うこと。

2. 品質管理

- （1）受注者は、施工前に管口対策及び人孔浮上対策で使用する材料の品質を確認できる試験結果を監督員に提出すること。
- （2）受注者は、施工後に管口対策及び人孔浮上対策で使用了材料の品質を確認するため、着手前1年以内に行った試験結果、または、監督員の指示する品質管理試験を行い、監督員に提出すること。

3. 施工管理

受注者は、施工工程を施工計画書に明記し、採用工法の専門技術を習得したものが常駐して施工管理を行うこと。

4. 出来形管理

受注者は、管口対策及び人孔浮上対策後の仕上状況を報告し、監督員の確認を受けること。

5. 試験研究機関の指定

品質管理のための材料試験は、原則として国公立、公益法人及び大学の試験研究機関の公的機関とする。ただし、これによらない場合は、監督員の立ち会いのもとで行うこと。

第4章 施工

1. 一般事項

工事施工は、以下の仕様により施工するものとし、この特記仕様書に定めのないものについては、監督員と協議の上、決定するものとする。

2. 事前調査

- (1) 受注者は工事に先立ち、当該工事の各工法が適切に施工できることを確認するため、既設管渠、人孔等の状況を調査し、その結果を直ちに報告すること。
- (2) 調査結果において、形状等の条件が設計図書と異なる場合は、速やかに資料を提出し、施工工法について監督員と協議の上、決定すること。
- (3) 酸素濃度測定、換気を行い工事の安全には十分注意を払うこと。
- (4) 事前調査の結果、人孔及び管渠部に破損等が見うけられる場合は、修繕依頼を行なう為の調査結果報告書を作成すること。
- (5) 調査に必要な書類については、監督員より貸与する。

3. 耐震対策工

- (1) 資材を搬入する場合、既設マンホールに損傷を与えないように注意すること。
- (2) 施工中の各管理においては、施工計画書に明記した方法・管理基準を遵守して行うこと。

4. 仮排水工

- (1) 施工中は、水流に支障のないよう仮排水を行うこと。
- (2) 仮排水の方法は、現場に適した設備・方法とし、監督員と協議の上で行うこと。

5. 安全衛生管理

- (1) 有資格者を適切に配置し、材料・使用機器の十分な点検や適正な使用に留意し安全な作業環境に努め事故発生の防止を図ること。
- (2) 交通整理員の誘導方法は、赤白旗によるものとする。但し夜間の場合は自発光具とする。
- (3) 工事中止基準については、現場条件に応じて定めるとし、労働安全衛生規則に定める作業の中止判断基準以上の基準を監督員と協議して施工計画書に明記すること。
- (4) 現場代理人は、注意報・警報等の気象情報をリアルタイムで取得できるよう、携帯電話等にて設定するなど、措置を講ずること。
- (5) 大雨時において流量増加の可能性があるため、施工の際は充分注意すること。
- (6) 人孔内での作業は、安全帯着用などの危険防止措置を講じた上で作業を行うこと。
- (7) 作業前に酸素濃度および有害ガスの有無を測定し、作業完了まで継続して測定すること。
- (8) 作業中は送風機等により人孔内の換気を行うなど、作業の安全に万全を期すこと。
- (9) 作業前の酸素濃度および有害ガスの測定値を記録した測定日誌を作成し、竣工時に提出すること。上記の測定において換気等の対策が必要と判断される場合は監督員に速やかに報告の上、協議を行うこと。

第5章 その他

- (1) 工事終了後に竣工図（精算図）及び維持管理システム用の資料を作成し、監督員の承認を得た上で提出すること。（詳細別紙参照）
- (2) その他、記載なき事項については、監督員と協議の上、決定するものとする。

付則「提出書類一覧表」

提出書類	提出部数	備考
竣工図	1 部	1/1000 (A3)
上記電子データ	1 部 (C D)	DXF
維持管理システム用資料	1 部	
上記電子データ	1 部 (C D)	Excel